# ～ 市長が語る ～

# 「わがまちの今・これから」

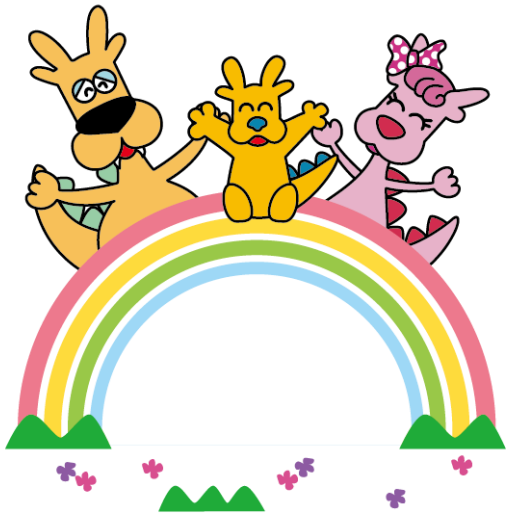
# 目次

第1部　わがまちの「今」　・・・

わがまちの財政状況　①　歳出（支出）の推移・・・・・・・・・・　P35
②　歳入（収入）の推移・・・・・・・・・・　P36
③　基金(貯金)と市債(借入金)の推移・・・　P37
④　財政の健全化判断・・・・・・・・・・・　P38
市ＰＲビデオのご紹介　ー袖ケ浦市の魅力を再発見ー・・・・・・　P39
第２部　わがまちの「これから」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P40
平成２９年度に実施する主な取組み
市民生活・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P41
防災・防犯・交通安全・・・・・・・・・・・　P42
保健・医療・福祉・・・・・・・・・・・・・　P43
学校教育・生涯学習・・・・・・・・・・・・　P44
環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P45
産業振興・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P46
都市基盤の整備・・・・・・・・・・・・・・　P47
行財政・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P48
新しいまちづくりが進んでいます・・・・・・・・・・・・・・・・・　P49
「未来をひらく袖ケ浦創生プラン」による市の将来人口・・・・・　P53
新しい総合計画の策定をはじめます・・・・・・・・・・・・・・・・　P54
わがまちの「これから」に向けて・・・・・・・・・・・・・・・・・　P56

# 第1部

# わがまちの「今」



# わがまちのプロフィール

# わがまちの沿革

- 1990年代　交通利便性の向上
  - 平成3年（1991年）4月　「袖ケ浦市」誕生
  - 「館山自動車道」開通（1995年）
  - 「東京湾アクアライン」開通（1997年）
  - 「袖ケ浦バスターミナル」オープン（1997年）

  ⇒　都心部との時間距離が短縮

- 2000年代　多様な施設がオープン
  - 花と緑のテーマパーク「東京ドイツ村」（2001年）

    ⇒年間１００万人が訪れる、ウインターイルミネーションも美しい施設
  - 「ガウランド（健康づくり支援センター）」（2004年）

    ⇒年間２０万人が健康づくりに利用しています
  - 農畜産物直売所「ゆりの里」（2007年）

    ⇒年間３０万人のお客様に新鮮な農作物を販売
  - ＪＡＦ公認レースコース
    「袖ケ浦フォレスト・レースウェイ」（2009年）

## 2010年代　大型イベント開催で知名度が向上

- 「ちばアクアラインマラソン」（2012年より隔年で開催）
  ⇒普段は車でしか通れないアクアライン上を走ることが魅力。
  昭和地区から根形地区の沿道全体でおもてなしをしています。
  次回は２０１８年秋に開催予定。

- 「アースモンダミンカップ【女子プロゴルフ】」
  （2012年より毎年開催中）
  ⇒毎年６月に行われており、ドラマティックな展開に４日間で
  １万人のギャラリーが興奮しています。
  優勝者への副賞は袖ケ浦市産コシヒカリ「袖ぴかり」１年分です。

- 「氣志團万博【音楽フェス】」（2012年より毎年開催中）
  ⇒毎年９月に袖ケ浦海浜公園で開催する氣志團主催の音楽フェス。
  大物アーティストの登場に、２日間で５万人が酔いしれます。

# 知っていますか？
# わがまちのこんなこと

- 市の花・木・鳥（昭和46年制定）
  - 市の花：ゆり（ヤマユリ）
  - 市の木：しい（イタジイ・標準和名はスタジイ）
  - 市の鳥：うぐいす

- 姉妹都市
  - イタジャイ市（ブラジル：昭和54年締結）

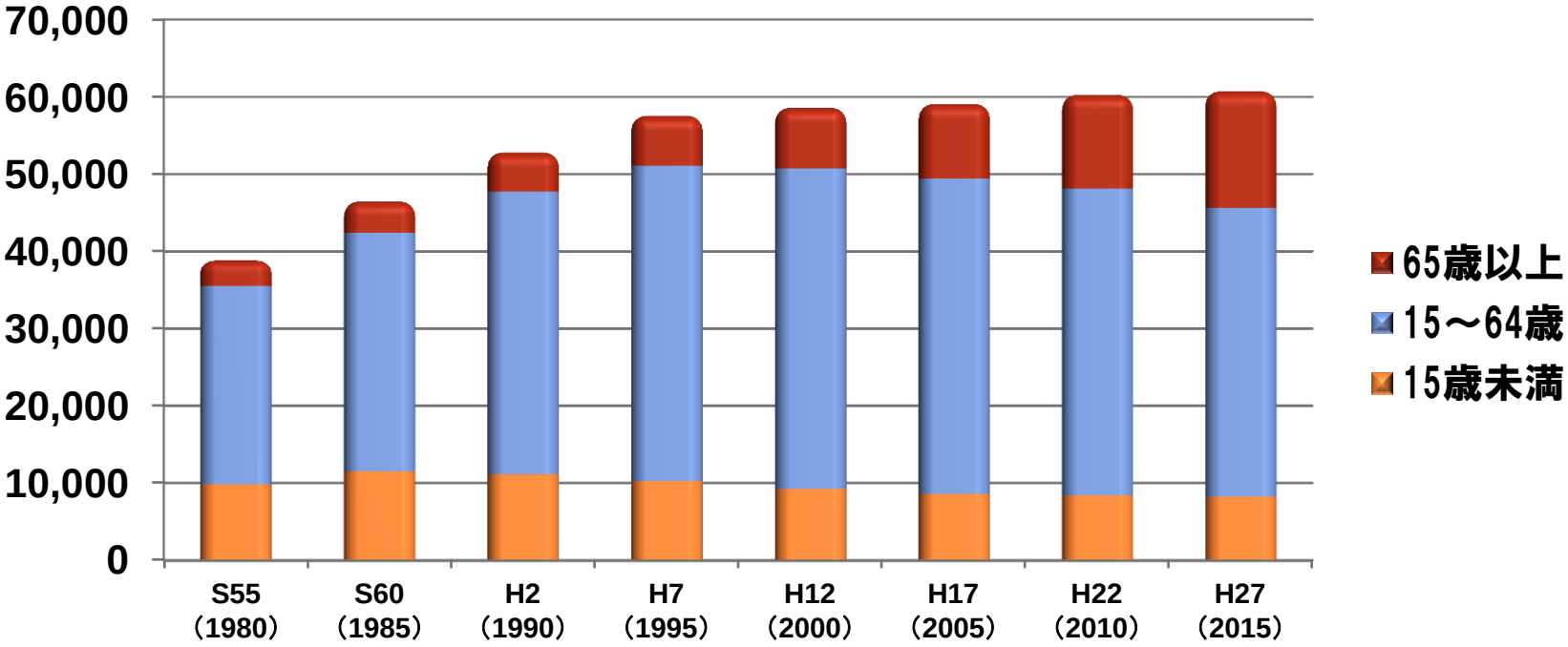
平成28年には、市長として
はじめて公式訪問しました。

平成28年7月23日　イタジャイ市
ジャンジール・ベリーニ市長と

# わがまちに住む人々の状況

- 総人口：６２，３９０人（平成２９年４月１日現在　住民基本台帳）

年齢階級別人口の推移（人）




国勢調査人口等基本集計（総務省統計局）

→　少子高齢化が加速しており、平成２７年国勢調査での高齢化率（65歳以上の割合）は２４．９％となっています。

## 市民の就業等の状況

| 区分 | H27調査 | 割合 | H22調査 | 比較 |
|---|---|---|---|---|
| 第1次産業（農林業） | 1,304人 | 2.5% | 1,419人 | △115人 |
| 第2次産業（製造業） | 8,095人 | 15.4% | 8,196人 | △101人 |
| 第3次産業（サービス業） | 19,150人 | 36.5% | 18,522人 | ＋628人 |
| その他産業従業者 | 985人 | 1.9% | 716人 | ＋269人 |
| 【就業者合計】 | (29,534人) | (56.3%) | (28,853人) | ＋681人 |
| 完全失業者 | 1,147人 | 2.2% | 1,983人 | △836人 |
| 家事 | 7,725人 | 14.7% | 8,858人 | △1,133人 |
| その他高齢者など | 9,326人 | 17.8% | 7,639人 | ＋1,687人 |

国勢調査人口等基本集計（総務省統計局）

→　就業者が増加し、失業者が減っている一方で、
その他高齢者などが増えています。

# わがまちに住む家族の状況

- 世帯数：２６，０３８世帯　（平成２９年４月１日現在　住民基本台帳）

## 世帯人員別世帯数の状況

| 区分 | H27調査 | 割合 | H22調査 | 比較（H27－H22） |
|---|---|---|---|---|
| 1人世帯 | 5,354世帯 | 23.6% | 4,655世帯 | ＋699世帯 |
| 2人世帯 | 6,574世帯 | 29.0% | 5,839世帯 | ＋735世帯 |
| 3人世帯 | 4,772世帯 | 21.1% | 4,599世帯 | ＋173世帯 |
| 4人世帯 | 3,863世帯 | 17.1% | 3,928世帯 | △65世帯 |
| 5人世帯 | 1,349世帯 | 5.9% | 1,455世帯 | △106世帯 |
| 6人以上の世帯 | 633世帯 | 2.8% | 859世帯 | △226世帯 |

国勢調査人口等基本集計（総務省統計局）

→　核家族化が進んでいるだけでなく、単身世帯も増加しています。

## 世帯構成の変化

| 区分 | 平成27年国勢調査 | 割合 | 平成22年国勢調査 | 比較(H27-H22) |
|---|---|---|---|---|
| 6歳未満のいる世帯 | 2,315世帯 | 10.2% | 2,402世帯 | △87世帯 |
| 18歳未満のいる世帯 | 5,855世帯 | 25.8% | 6,011世帯 | △156世帯 |
| 夫婦のみの世帯 | 4,851世帯 | 21.4% | 4,270世帯 | ＋581世帯 |
| 65歳以上のいる世帯 | 9,496世帯 | 41.9% | 7,880世帯 | ＋1,616世帯 |
| （65歳以上の単身世帯） | 1,927世帯 | 8.5% | 1,165世帯 | ＋762世帯 |

国勢調査人口等基本集計（総務省統計局）

→　子どものいる世帯が減り、高齢者がいる世帯が増加しています。
特に高齢者の単身世帯が急増しています。

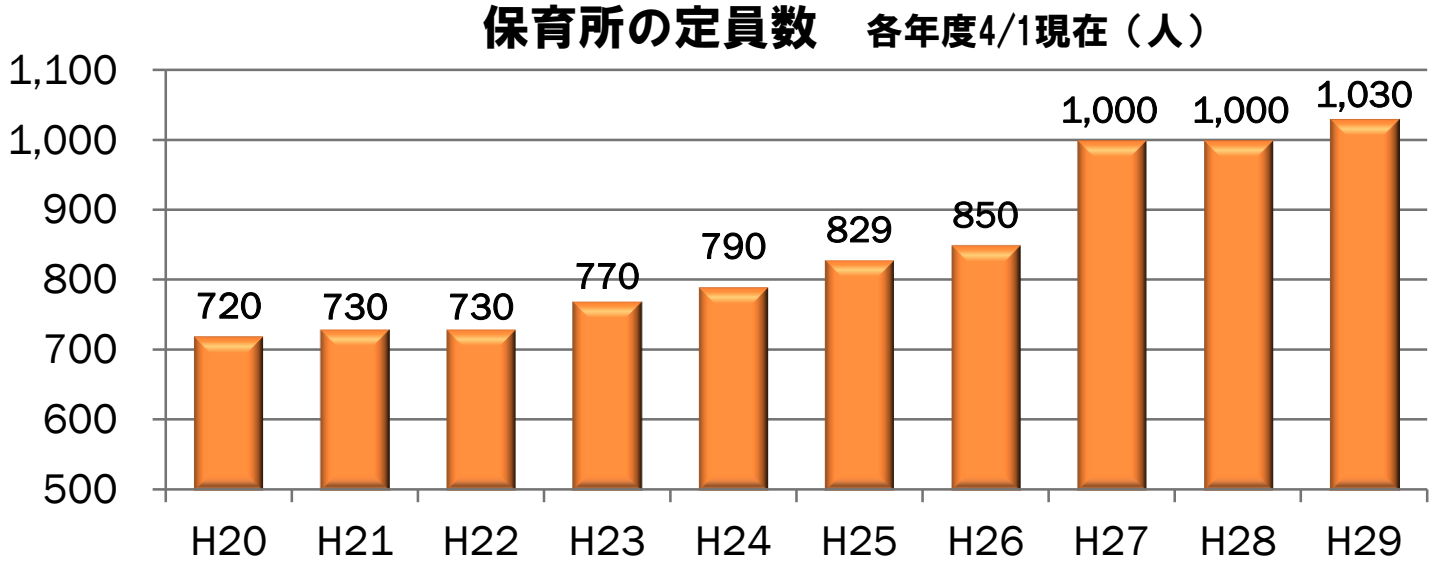
# 計画的なまちづくりの展開

- 袖ケ浦市総合計画
- 未来をひらく袖ケ浦創生プラン

| | 袖ケ浦市総合計画 | 未来をひらく袖ケ浦創生プラン |
|---|---|---|
| 計画の趣旨 | 長期的かつ総合的なまちづくりの指針 | 「しごとの創生」「ひとの創生」「まちの創生」に一体的に取り組む施策 |
| 根拠法令 | 地方自治法（平成23年策定義務廃止） | まち・ひと・しごと創生法（平成26年制定） |
| 計画期間 | 平成22年度～31年度（１０年間） | 平成27年度～31年度（５年間） |
| 事業数 | 165事業（H28-H30　第3期実施計画） | 71事業 |

# わがまちの特色
# ①　子育て環境の充実を図っています

- 保育所の定員増や多様な保育の充実
  - 現在、市内には５箇所の市立保育所と４箇所の私立保育園があり、保育施設定員数は、平成20年度の720人から平成29年度は1,030人に増員しています。
  - 休日保育や一時保育のほか、病後児保育など多様な保育を実施しています。



## 子育て中の親子を応援しています

- 平成２６年に市が整備し、年間１万２千人が利用している「そでがうらこども館」や、私立保育園にて行っている「子育て支援センター」は、子育て中の親子が安心して遊べることができるほか、自由な交流による仲間づくりや、育児の不安や保育サービスについて保育士が相談に応じている子育ての交流拠点です。
- 公立保育所でも、平日の「園庭解放」を行っており、「なかよし広場」の実施日には遊戯室も利用できます。

## 放課後児童クラブ

- 放課後、家庭に保護者がいない子どもたちが、安全で楽しい時間を過ごす施設です。
- 市内の小学校区すべてに放課後児童クラブが設置されており、現在14のクラブで、600人以上の児童が利用しています。

# ②　教育施策の充実

## 安全安心な教育環境の整備

- 平成27年度までに、すべての校舎及び体育館の耐震化が完了し、安全安心な教育環境での授業だけでなく、災害時には避難所として使用することもできます。

## 市独自の教員を配置

- 市独自で各小中学校に配置している基礎学力向上支援教員、特別支援教員、読書指導員、外国語指導助手を活用し、子どもたちの学力向上に取り組んでいます。
- 平成27年度に実施した調査では、「授業がわかりやすくなった」と感じている児童生徒の割合は、小学校で96.6%、中学校で93.3%と高い教育効果を生み出しています。
- スクールカウンセラーや心の相談員などを効果的に活用し、子どもたちの心の問題にも対応しています。

## 自然体験活動

- 小学５年生の児童を対象に、県内施設を利用して、発育段階に応じて非日常的な体験を重視した自然体験活動を２泊３日で行い、仲間を思いやる心の育成を図っています。
- また、中学２年生の生徒を対象に、県外の登山を中心とした自然体験活動を２泊３日で実施しており、困難に打ち克つ心の育成を図っています。

## 安全でおいしい給食

- 平成26年に開設した新しい給食センターでは、アレルギー専用の調理室を設けているほか、袖ケ浦産コシヒカリ100%の温かいご飯など、おいしい給食を提供しています。

# わがまちの誇り（教育）

本市独自の教育施策に基づいた先進のカリキュラムが、優れた学習成果を挙げています。

- 「第20回図書館を使った調べる学習コンクール」
  （公益財団法人図書館振興財団主催）
  - 文部科学大臣賞
    （調べる学習部門小学生の部[高学年]）
    昭和小6年生児童が受賞
  - 上位入賞作品数は17年連続で全国一

- 「第30回毎日カップ中学校体力つくりコンテスト」
  （毎日新聞社主催、文部科学省など後援、第一学習社協賛）
  - 毎日新聞社賞　昭和中学校
    特別賞　根形中学校
    優良賞　平川中学校
  - 全国から4427校がエントリーし、優良賞以上は42校
    そのうち、本市から３校が受賞しました。

# ③　健康福祉施策の充実

- ながうら・ひらかわ健康福祉支援室
  - 高齢者の増加に伴い、地域や家庭のことや、福祉と生活全般について総合的な相談を受けられる健康福祉支援室を身近な地域に設置し、解決の支援を行っています。
  - 年間で約7,000件の相談訪問等の対応を行っています。
- 認知症初期集中支援チームの設置
  - 認知症の早期診断・早期対応を目的に、医療と福祉の専門職による充実したチームを県内で3番目に設置しました。
- 袖ケ浦いきいき百歳体操
  - おもりの入ったバンドを手首や足首に装着し、なじみの歌に合わせて動かす筋力運動で、週に1回、1時間の運動で、筋力の維持向上に効果があります。
  - 公会堂など４０か所以上の身近な場所で、高齢者を中心に８００名を超える方々が参加しています。

## 高齢者のための施設の拡充

- 現在、市内には以下の高齢者施設（介護保険施設）がありますが、今後も、高齢者が住み慣れた地域で生活できるよう拡充を目指しています。
  - 特別養護老人ホーム　３施設(定員215名)
  - 地域密着型小規模特別養護老人ホーム　３施設(定員87名)
  - 老人保健施設　２施設(定員190名)

## 世代間支え合い家族支援事業

- 高齢者の孤立を防ぐため、離れて暮らしている高齢者と子などが、市内で同居または近隣での居住を始めるために、住宅の新築や転居などをした費用の一部を助成しています。
- 助成限度額は、新築・購入・増改築については30万円、持ち家に同居する場合の引越し費用は5万円です。
- ４月から、高齢者と子などの両方が市外から転入し同居などをする場合も対象とし、利用促進を図っています。

### わがまちの誇り（健康づくり）

**特定健康診査の受診率　県内２位　50.8%**

１位：東庄町　51.4%

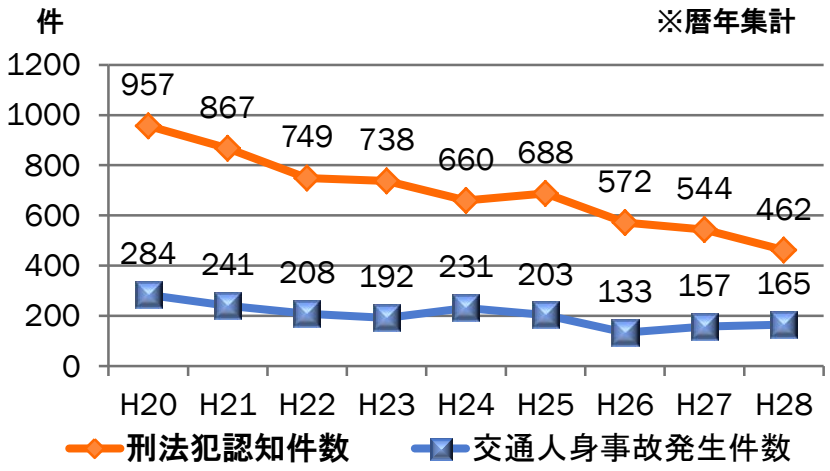
- 平成26年度特定健診・特定保健指導に係るデータ収集、評価・分析事業（千葉県）

⇒　平成27年度は52.8%にアップ！

# ④　市民の安全安心

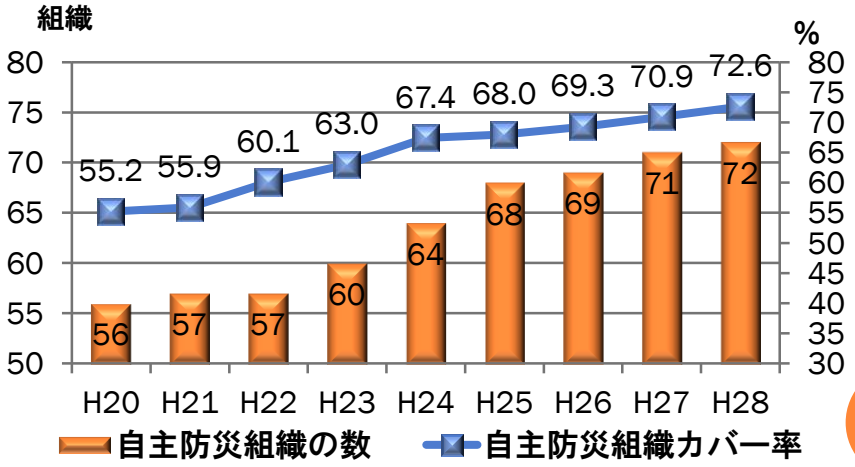
## 犯罪・交通事故の状況

- 刑法犯認知件数、交通人身事故件数ともに減少傾向にあります。
- 昨年は５年ぶりに市内での死亡事故が０件でした。




## 自主防災組織の状況

- 区等の自治会を単位とした自主防災組織の結成・育成を促進しており、組織数、自主防災組織のカバー率とともに年々増加しています。



# ⑤　豊かな土地を利用した農畜産業

豊かな大地と温暖な気候に恵まれた袖ケ浦市では、農業施設環境の整備や、経営・生産基盤の強化等の施策の展開により、水稲や野菜、果物などの生産が盛んであるほか、県内有数の酪農地帯ともなっています。

- **農作物の状況**（販売目的の野菜類の作付面積）

| 品目 | 平成27年作付面積 | 県内順位 |
|---|---|---|
| レタス | ２５ヘクタール | ２位 |
| だいこん | １１９ヘクタール | ５位 |
| キャベツ | ４２ヘクタール | ６位 |
| さといも | １６ヘクタール | ９位 |

- **家畜等の状況**（販売目的の家畜等の飼養頭羽数）

| 区分 | 平成27年飼養頭羽数 | 県内順位 |
|---|---|---|
| 乳用牛 | １，５７２頭 | ７位 |
| 採卵鶏 | ６１９，０００羽 | ７位 |

## わがまちの誇り（農業）

「さやいんげん」の算出額：千葉県は**全国シェア１位**
袖ケ浦市は**県内有数の産地**となっています。
ちょうど今（5月）が旬です。

平成26年農業産出額より

温暖な気候や土地の特性を利用した、おいしいお米や新鮮な農畜産物は、袖ケ浦市農畜産物直売所「ゆりの里」でも販売しています。ぜひ、ご賞味ください。

# ⑥　日本を支える多様な企業

京葉臨海工業地帯の一翼を担う臨海部は、
首都圏の重要なエネルギー拠点です。また、臨海部や工業団地には多業種の企業が存在し、雇用を生み出しています。

- 市内のエネルギー関連施設
  - 世界最大級のＬＮＧ基地（230万世帯使用量/年間）
  - 火力発電所（最大出力360万KW）
  - 製油所（300万キロリットル/年）　など

- 事業所の状況
  - 事業所数　２，０３１事業所
  - 産業大分類別事業所数トップ３
    - 卸売業、小売業　３５９事業所（17.8%）
    - 建設業　３１９事業所（15.7%）
    - 宿泊業、飲食サービス業　２４０事業所（11.8%）

平成２６年経済センサス基礎調査

# わがまちの誇り（産業）

臨海部の企業や、近接する袖ケ浦椎の森工業団地の企業などが、市を県内有数の産業地域に押し上げています。

- 製造業売上(収入)額

  県内２位　1兆3905億円（全国37位）

  １位：市原市　4兆6323億円（全国6位）

- 全産業売上(収入)額

  県内４位　2兆7482億円（全国64位）

  １位：千葉市　9兆4409億円（全国14位）

  ２位：市原市　6兆4855億円（全国23位）

  ３位：船橋市　3兆2780億円（全国48位）

平成26年経済センサス　基礎調査結果より

# ⑦　充実した各種施設

## 公園

- 市民の憩いの場である「袖ケ浦公園」「百目木公園」には年間30万人以上の方が訪れます。
- 市内には182か所の公園緑地があり、一人あたりの公園緑地面積は12.75㎡と、県内でも非常に高い水準です。（県内平均：6.71㎡）

## 図書館

- 各地区に整備されている「図書館・図書室」の蔵書数は７０万点以上。市民ひとりあたりの蔵書数では県内２位を誇り、子どもたちの調べる学習コンクール上位入賞の原動力となっています。

## 郷土博物館

常設展示では、市内５地区の民俗・史跡などについて映像で紹介しているほか、市の歴史を「近現代」から「原始」まで時間をさかのぼって見ることができます。

## 多様な運動施設

市内には健康づくりをサポートする「ガウランド」のほか、

「野球場」や「サッカー場」、多様なスポーツに対応できる

「総合運動場」や「臨海スポーツセンター」など

多くの運動施設が整備されています。

# ⑧　進む都市基盤整備

将来の市の発展に向けた基盤整備に取り組んでいます。

- **市内幹線道路の整備**
  - 市街地やインターチェンジを結ぶ主要幹線道路の整備を進めており、市道の道路改良率は８３％と県内屈指の高水準です。
- **袖ケ浦駅、長浦駅の駅舎・自由通路の整備**
  - 袖ケ浦駅及び長浦駅は、自由通路の整備や、バリアフリー対応を行い、近代的な駅舎に生まれ変わりました。

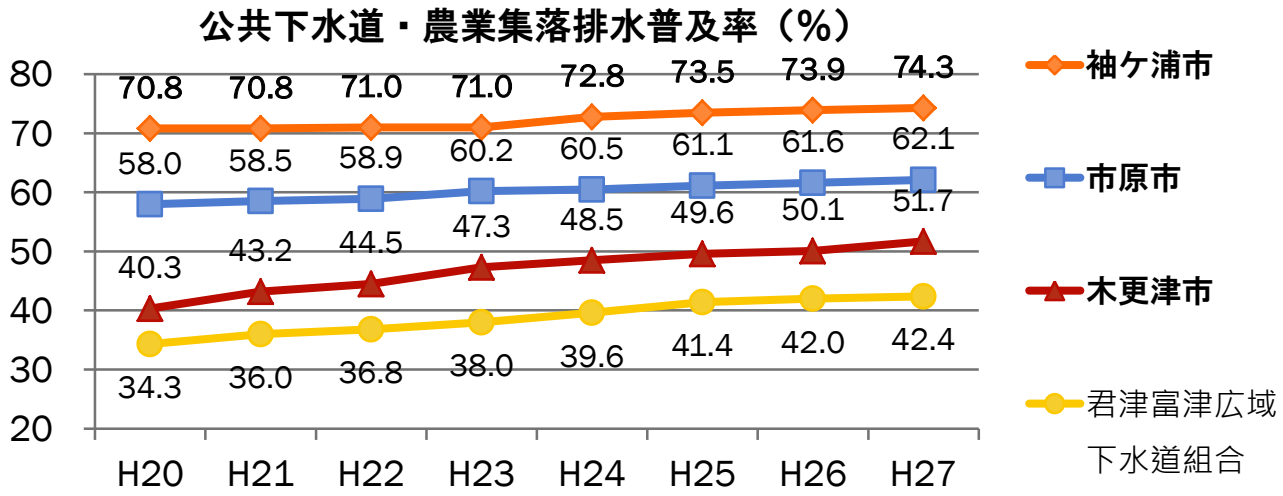
- **袖ケ浦バスターミナルの設置**
  - 東京湾アクアラインの開通に伴うバスターミナル整備にいち早く取り組み、現在は６路線に拡充、路線バスの乗り入れも行っています。年間１２０万人に利用される交通拠点です。

## 老朽化した水道管の更新

- 水道の老朽管は地震などで破損するおそれが高いため、耐震性の高い管へ計画的に更新しています。
- 本市の老朽管の割合は約１１％と４市の中で最も低くなっています。（※老朽管…石綿セメント管、塩化ビニール管、普通鋳鉄管の割合）

## 公共下水道・農業集落排水の普及

- 市街地の生活環境の整備と、水環境の保全を目指して、公共下水道・農業集落排水の普及に取り組み、近隣市で最も高い普及率を誇っています。



# ⑨　地理的ポテンシャルの向上

高速バスを利用した
各地への最短時間

高速道整備を利用した高速バス運行など、
都心部との時間を縮める施策の展開により、
国内外を問わずアクセスが容易な
交通利便性の高いまちになりました。

# ⑩　地域の魅力【昭和地区】

- 市の行政拠点として中枢を担う昭和地区は、市役所のほか、市民会館、中央図書館、総合運動場など多くの施設が集約されています。
- 袖ケ浦バスターミナルの整備により、東京・神奈川への利便性が向上したことから、豊かな環境を求めて移住する方も増加しています。
- 駅舎整備が行われた袖ケ浦駅周辺は、海側地区の開発が進んでおり、さらなる発展が期待できます。

**袖ケ浦海浜公園**

東京湾を一望できるだけでなく、毎年３月と１０月には「ダイヤモンド富士」も望める絶景スポットとして人気です。

# ⑩　地域の魅力【長浦地区】

- 臨海部への工場立地に伴う住宅地開発などにより、市内で最も人口が集中している長浦地区には、行政拠点として長浦行政センターのほか、長浦おかのうえ図書館などの施設整備が行われています。
- 長浦駅周辺や平成通りには、多くの商業施設があるほか、市内最大の医療機関である「さつき台病院」も立地しています。
- 椎の森工業団地の開発も進み、更なる発展が期待できます。
- いちごやブルーベリーなどの味覚狩りが楽しめる農園など、自然に触れ合える地域でもあります。

**臨海スポーツセンター**

県内数か所しかない５０m屋内温水プールをはじめ、バドミントンが６面同時使用できるアリーナ、トレーニングルームなど、多くの方が汗を流して楽しんでいます。

# ⑩　地域の魅力【根形地区】

- 市の中央部に位置する根形地区は、
  袖ケ浦公園のほか、郷土博物館やガウランド、学校給食センターといった市内唯一の施設が多く存在しており、文化や歴史に出会うことのできる地域です。
- 実りをもたらす畑や田園が広がり農業が盛んです。
- 袖ケ浦公園と、隣接する農畜産物直売所「ゆりの里」は連日市民や観光客で賑わっています。

**袖ケ浦公園**

四季折々の自然が楽しめる市を代表する公園。６月には花菖蒲まつりが開催されます。

# ⑩　地域の魅力【平川地区】

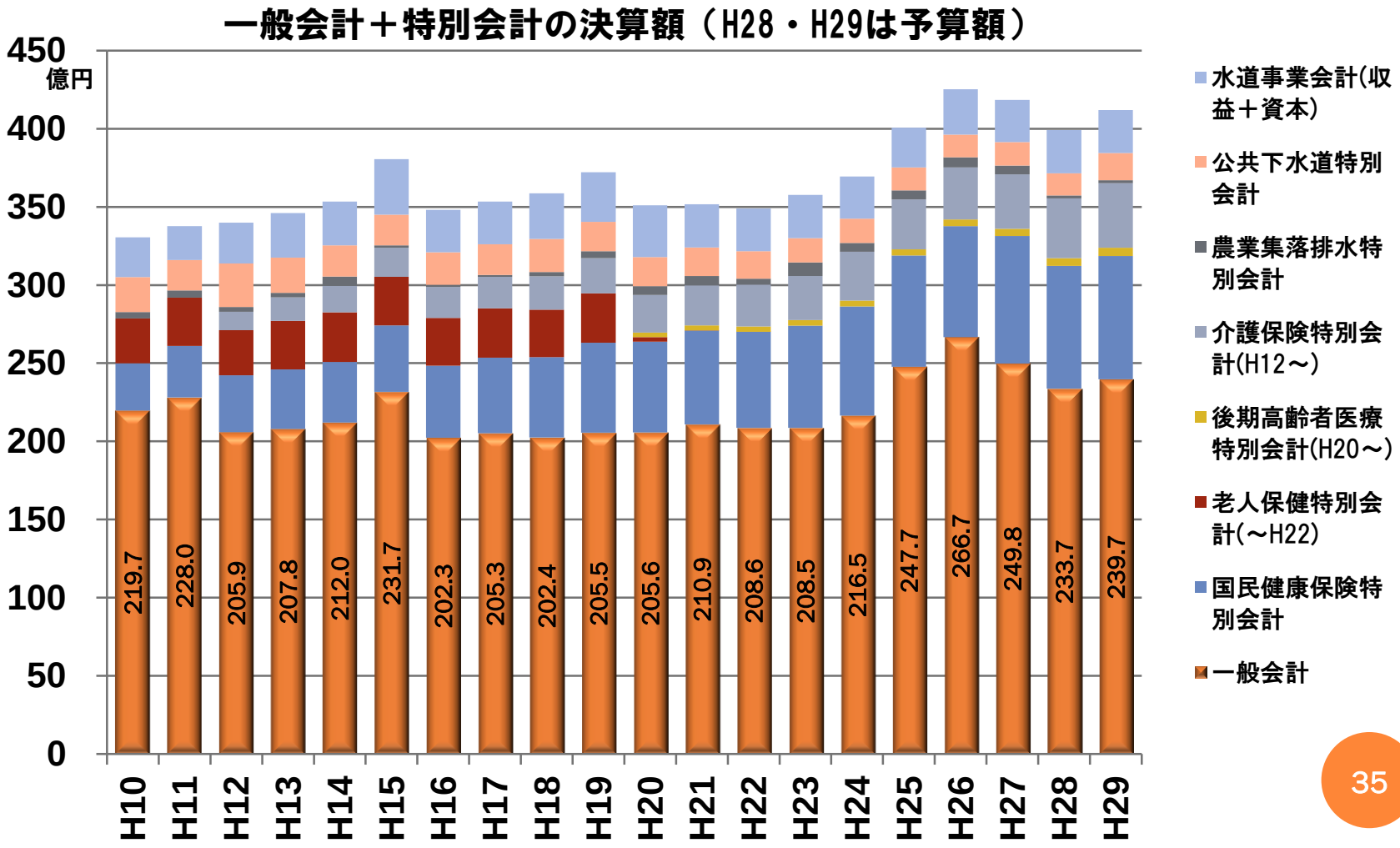
- 県内外から高い集客力を誇る「東京ドイツ村」や「ダチョウ王国」のほか、オートキャンプ場、ゴルフ場、レースコースもある平川地区は、市内で最も観光客が訪れる地域です。
- 「百目木公園」は、多目的広場やテニスコートがあるほか、夏になれば遊具が充実のプールが大人気です。
- 広大な田園は、温暖な気候と豊かな水を利用した早場米の産地であり、いち早く新米を味わうことができます。また、農業センターも整備され、市の農業拠点となっています。

農村公園ひらおかの里

米作りの体験を通じて農村の歴史や景観と出会う「田んぼの学校」を開校しています。

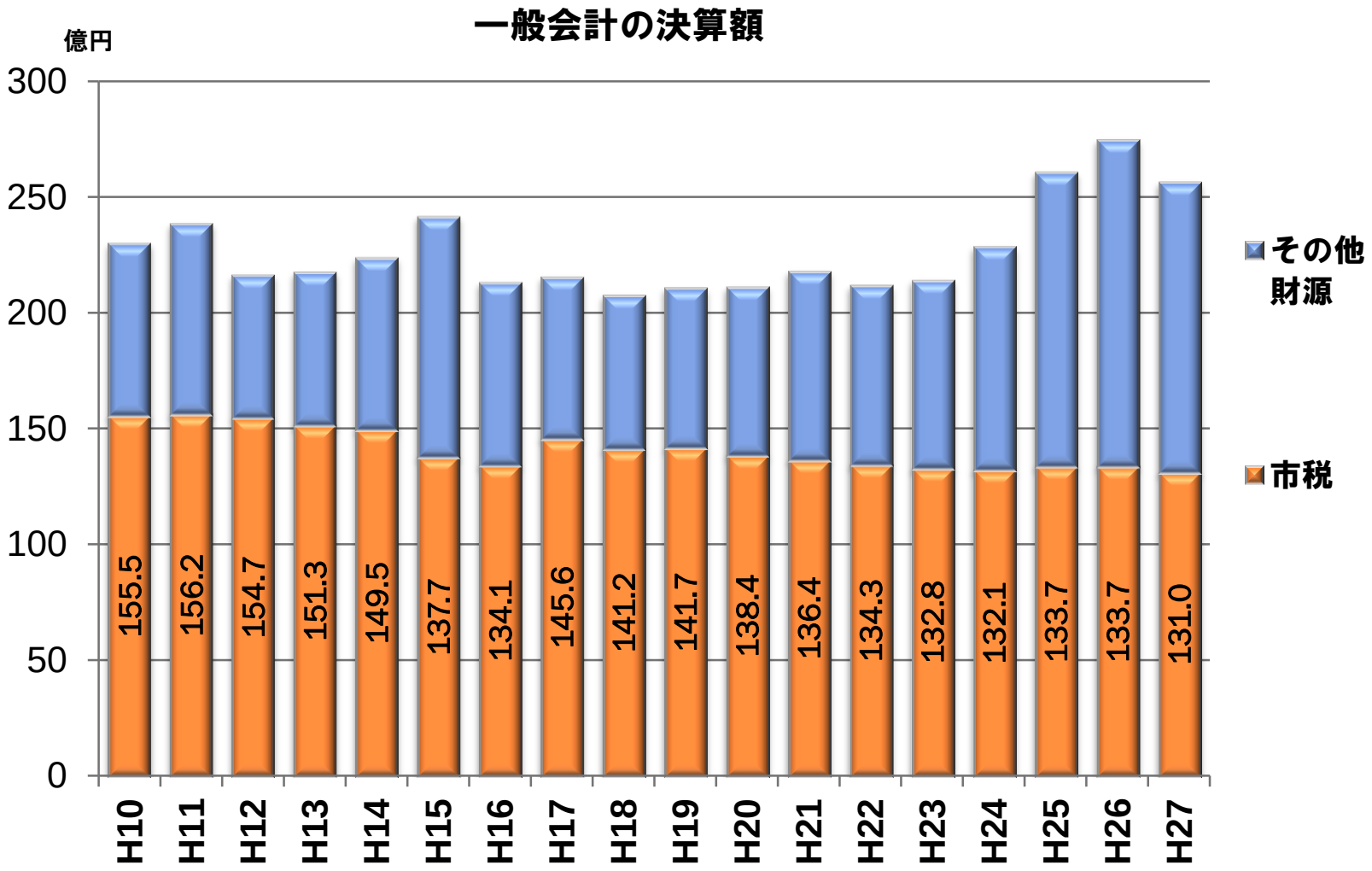
# わがまちの財政状況
# ①　歳出（支出）の推移

基盤整備や社会保障費の増加などにより、歳出の規模が増加しています。



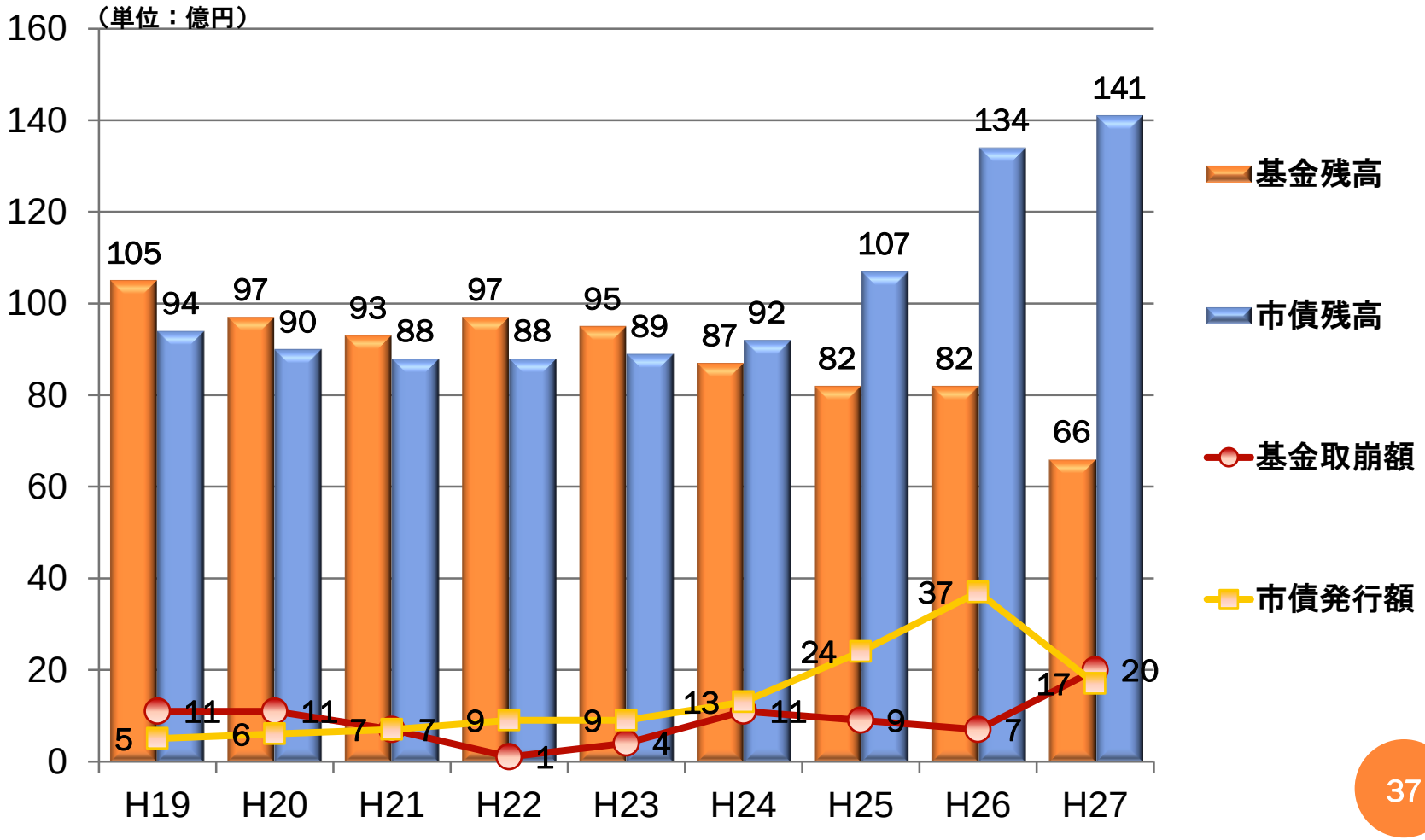
# ②　歳入（収入）の推移

市税収入が減少しているため、借入金など特定財源の活用を図っています。



# ③　基金（貯金）と市債（借入金）の推移

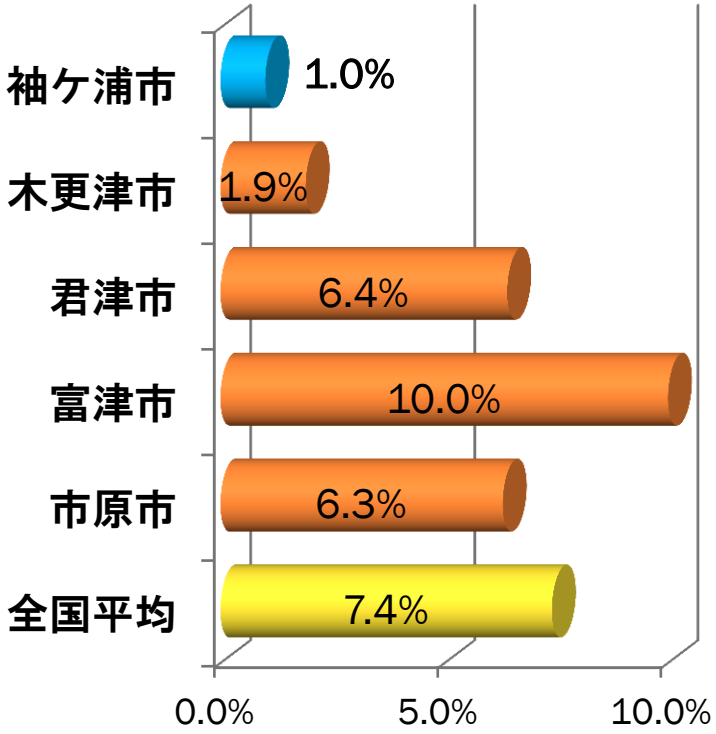
社会資本整備等については、基金や市債を活用しています。

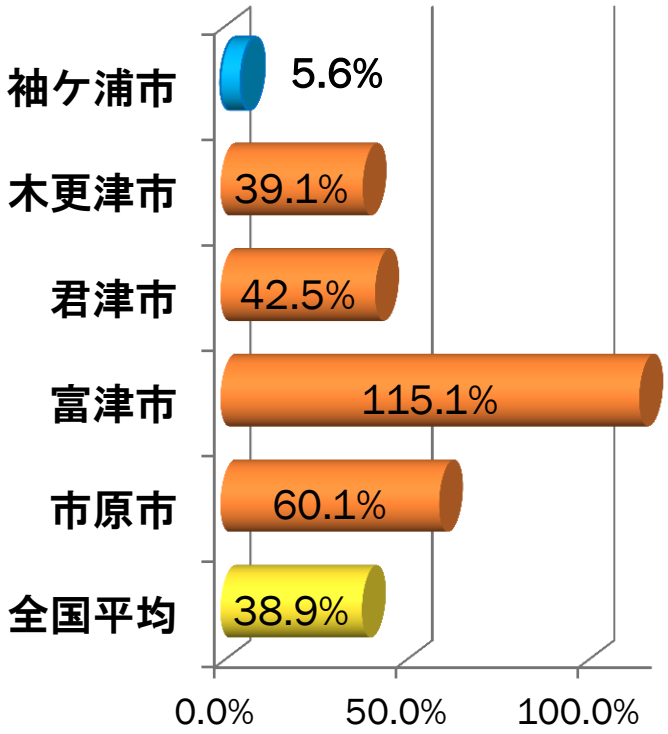


# ④　財政の健全化判断

**実質公債費比率**
…借入金の返済額の大きさを、自治体の財政規模に対する割合で表したもの
⇒低い方が健全

**将来負担比率**
…現在抱えている借入金など負債の大きさを、自治体の財政規模に対する割合で表したもの
⇒低い方が健全




**袖ケ浦市の財政状況はすべて健全です**

# 市ＰＲビデオのご紹介
# ~袖ケ浦市の魅力を再発見~

*動画をご覧ください*

# 第２部

# わがまちの「これから」

# 平成２９年度に実施する主な取組み

## 【市民生活】
## 市民参加で進める住みやすいまちづくり

- 市民協働を一層推し進めていくため、「（仮称）協働のまちづくり推進条例」の策定や、「（仮称）まちづくり協議会」の組織化に取り組みます。

- 路線バスや高速バス、交通空白地域など市内における公共交通の課題も踏まえ、今後の公共交通のあり方について検討を進めます。

- 火葬場の建設については、君津地域４市による整備・運営に向けて、具体的な協議を引き続き進めていきます。

# 【防災・防犯・交通安全】
# 災害、事故、犯罪をなくす安全性の高いまちづくり

- 28年8月に設立された「袖ケ浦市災害対策コーディネーター連絡会」と連携して、防災ボランティアのリーダーとなる人材を育成します。

- 災害時の防災拠点でもある市庁舎の整備について、市民委員会や市民アンケート調査の結果などを踏まえ、引き続き基本設計を進めます。
- 街頭防犯カメラの計画的な設置を引き続き行います。
- 近年増加している高齢者による交通事故を防止するため、交通安全教育や広報啓発活動の充実に努めます。
- 消防団組織の見直しや消防団員の処遇改善と加入促進に努めます。

## 【保健・医療・福祉】
## すこやかに暮らせるふれあいと支えあいのまちづくり

- 妊娠期から子育て期にわたるまで母子の健康や子育てに関する様々な相談が１つの窓口でできる「子育て世代総合サポートセンター」を４月より開設しました。

- 生活困窮世帯の子ども（小学４年生から中学３年生）を対象に、学習支援や親への養育支援を開始します。

- 産前産後の支援が受けられない母親等に対し、ヘルパーサービスを提供します。

- 健康マイレージ事業に引き続き取り組み、健康意識の向上と疾病の早期発見を図ります。

## 【学校教育・生涯学習】
## 豊かな人間性を育む文化の薫るまちづくり

- 市独自で各小中学校に配置している基礎学力向上支援教員、特別支援教員、読書指導員、外国語指導助手を活用し、子どもたちの学力向上に取り組みます。
  また、スクールカウンセラー、心の相談員などを効果的に活用し、子どもたちの心の問題にも対応します。

- 奈良輪小学校と蔵波小学校のトイレ洋式化及び給排水設備の改修工事などを実施します。

- 袖ケ浦駅海側開発に伴う奈良輪小学校の児童数増加に対応するための校舎増築の準備を進めます。

- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会への機運の醸成に向けて、スポーツを「する」「観る」「支える」の3つの観点から取組みを推進します。

## 【環境】
## 環境負荷を減らし自然と共生するまちづくり

- 今年度新たに、市民ボランティアと
  ポイ捨て防止キャンペーンを実施します。

- 市民や企業と協働して清掃活動の
  推進に取り組むことで、市民の環境
  美化に対する意識向上を図るとともに、
  市民や来訪者に愛される街並みの確保に取り組みます。

- ごみ処理の効率化及びランニングコストの縮減を図るため、
  老朽化した袖ケ浦クリーンセンター粗大ごみ処理施設の改修
  に向けた検討を進めます。

- 不法投棄・土砂対策は、引き続きパトロールや監視カメラの
  活用などによる早期発見と適切な指導を行うほか、休日・夜
  間の監視体制の充実に取り組みます。

## 【産業振興】
## 産業が調和した賑わいと活力のあるまちづくり

- 有害鳥獣による農作物の被害対策として、わな猟免許新規取得の補助や、侵入防護柵・捕獲檻の設置を行います。

- 農畜産物直売所「ゆりの里」について、出荷者数の増加に伴い、拡張を含めた改修工事を実施します。

- 市の豊富な農畜産物を活かした「６次産業化」や「農家レストラン」「体験農園」などの新たな取組みを支援します。

- 新規創業者を支援するワンストップ相談窓口の設置や、経営に必要な知識習得のための創業塾を、商工会と連携して実施します。【５月１日に開始しました】

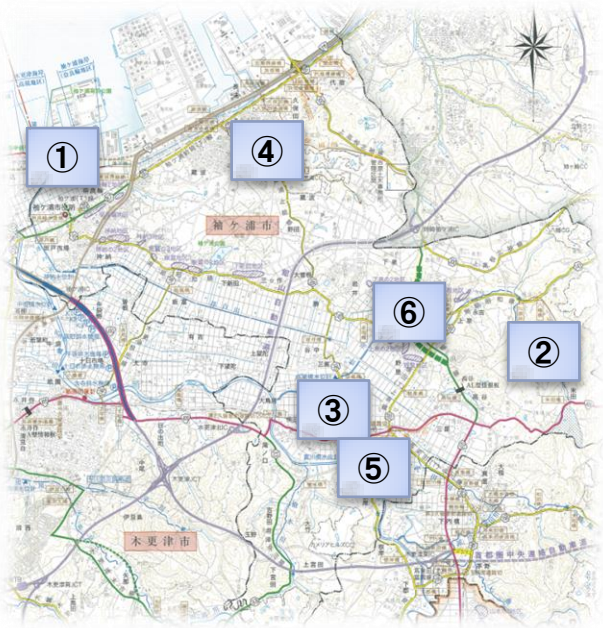
## 【都市基盤の整備】
## 快適で調和のとれたまちづくり

- 海側地区の開発効果を高める高須箕和田線の南袖延伸①に取り組みます。

- 川原井林線②の道路改良工事の完成を目指すとともに、引き続き三箇横田線③の道路拡張工事を実施します。

- 通学路の安全対策として、いちょう通り蔵波台交差点④に右折車線を整備します。

- 県が進めている富川橋の整備の29年夏の完了⑤と、主要地方道千葉鴨川線バイパス⑥の早期完成を要望します。



# 【行財政】
# 市民ニーズに的確に対応する信頼される行財政運営

- 袖ケ浦市が有している、豊かな地域資源、安定した産業など、多方面にわたる数多くの魅力について、「市政の見える化」と合わせ、「袖ケ浦シティプロモーション」への取組みを推進し、交流・定住人口の増加、観光の振興、企業誘致の推進などに取り組みます。

取組みの例

- ガウラ派遣ＰＲ活動
  （東京・神奈川方面）
- 大型モニターによる
  ＰＲ動画の放映
  （東京日本橋）　など

# 新しいまちづくりが進んでいます

- **袖ケ浦駅海側地区**
  - 平成28年12月に工事が概成し、新しい住宅地への居住が始まっています。
  - 駅前にはマンションの建設も進んでおり、商業施設・宿泊施設・医療施設のほか、認定こども園の整備も予定しており、活気のあるまちの形成が期待できます。

駅前将来計画図

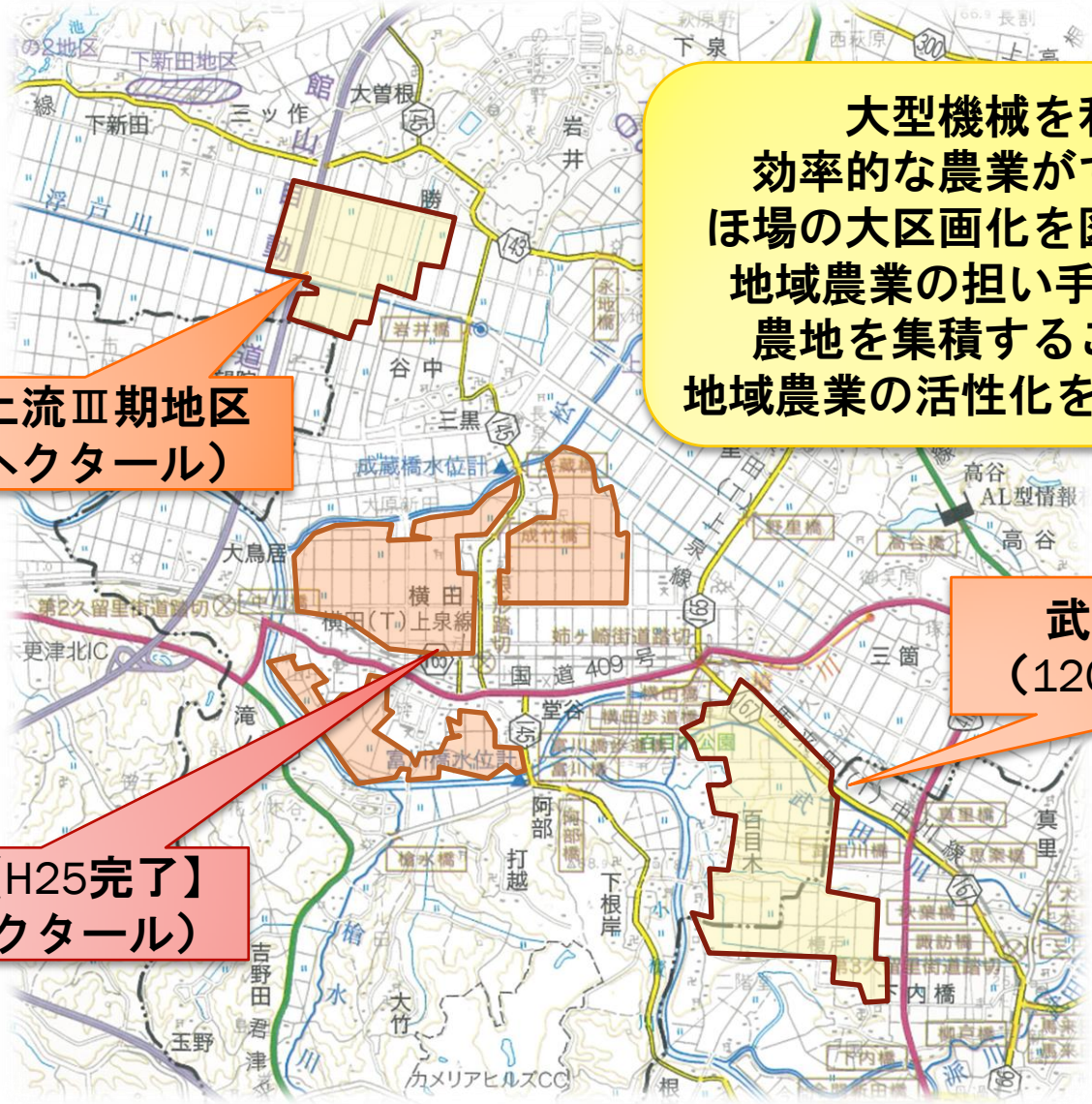
今年2月撮影

## ○ 海側地区周辺の主要道路整備

区画整理事業とともに周辺の幹線道路を整備することで、地域全体の価値が上がり、市内全域にも相乗効果が期待されます。

ＪＲアンダーパス
７月開通！

## 効果的な農業経営基盤の育成（ほ場整備）




大型機械を利用した
効率的な農業ができるよう、
ほ場の大区画化を図るとともに、
地域農業の担い手（経営体）に
農地を集積することにより、
地域農業の活性化を進めています。

浮戸川上流Ⅲ期地区
（58.1ヘクタール）

武田川下流地区
（120.7ヘクタール）

横田地区【H25完了】
（145.1ヘクタール）

## 袖ケ浦椎の森工業団地（第２期地区）

- 椎の森工業団地は全体で約７４ｈａの工業団地で、京葉臨海工業地帯に近接し、優れた交通アクセスを有することから、稼働中の第１期地区（約１８ｈａ）では１２社が進出し、約６５０人が働いています。

- 新たに進められている第２期地区（約３２ｈａ）の整備工事は本年度中に完成します。

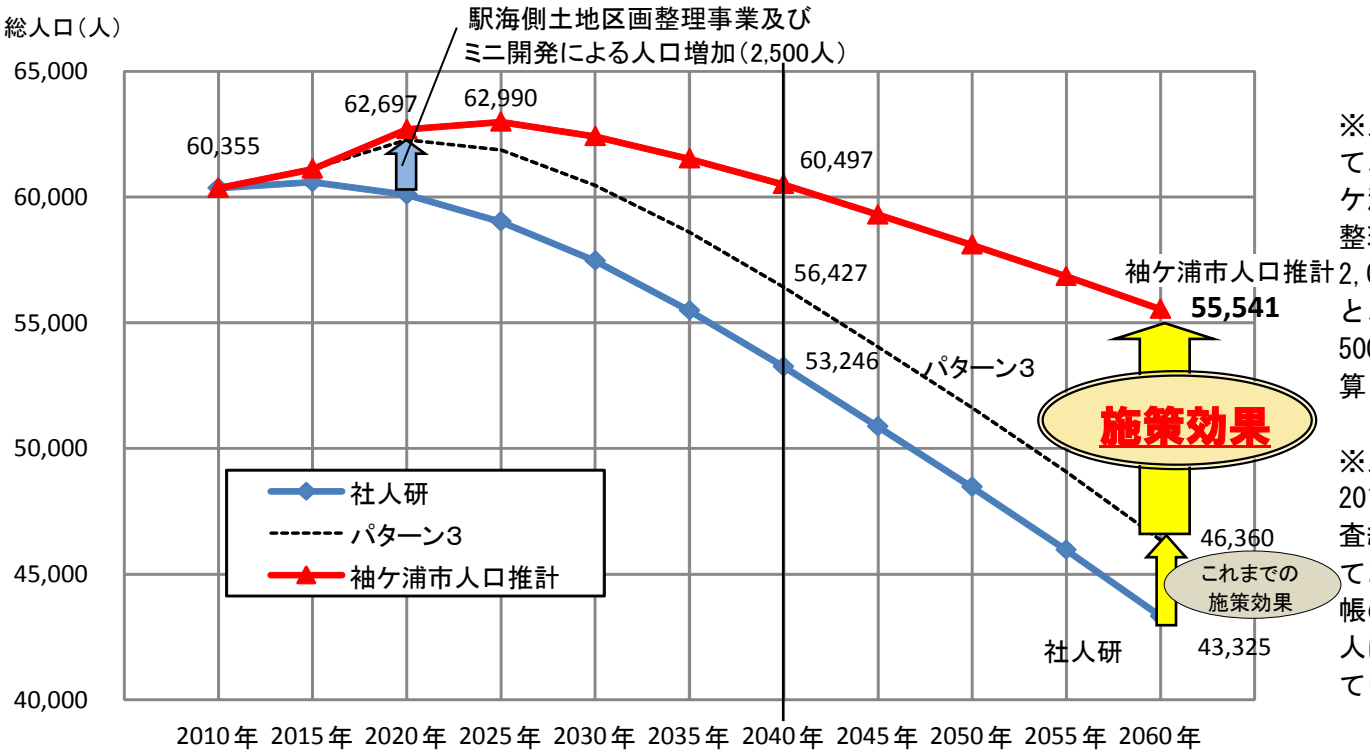
- 県と市で企業誘致活動を行い、３月に７区画の入札が行われ、秋には残りの区画も入札が予定されており、新たな雇用と地域経済の活性化が期待できます。

将来計画図

# 「未来をひらく袖ケ浦創生プラン」による市の将来人口（人口ビジョン）

- **２０６０年の推計人口　⇒　５５，５４１人**

**全国で人口減少が見込まれる中、減少率を低下させるには効果的な施策の展開が重要です。**




※人口増加要因として、2025年までに袖ケ浦駅海側土地区画整理事業による2,000人の人口増と、ミニ開発による500人の人口増を加算して試算。

※人口ビジョンは2010年までの国勢調査結果を基に推計しており、住民基本台帳の人口と約1,000人ほどの差異が生じている。

# 新しい総合計画の策定をはじめます

総合計画は、将来のまちづくりの
基本となる重要な計画です

- **策定の背景**
  - 現在の総合計画が平成３１年度で
    目標年次を迎えることから、
    本年度より、新しい総合計画の
    策定をはじめます。

- **計画の概要**
  - 新しい総合計画の目標年次は２０３０年頃

## 今後対応を求められる事項

- これまで、市の大きな魅力である子育て環境の充実への取組みのほか、様々なインフラ整備などにも取り組み、将来に向けた市の発展のため、市民とともに、まちづくりを行ってきました。しかし、現時点においても、主に次のような課題や対応が考えられます。

  - 市民と行政による、更なる協働のまちづくりの推進
  - 将来の人口減少を見据えた取組み
  - 市税収入の大幅な伸びが期待できない中、扶助費などの増大による財政の硬直化の進行
  - 災害等に対応するための防災力の強化
  - 高齢者の増加に伴う、健康・福祉・コミュニティなどの取組み
  - ６次産業化など稼げる農業への転換
  - 臨海部や椎の森工業団地などの企業への産業施策の推進
  - 観光を裾野の広い産業として捉えた取組み
  - 人口減少が進んでいる内陸部の対応
  - 市街化調整区域における地区計画などを活用したまちづくり
  - 効率的かつ効果的な本市の魅力発信の推進

など

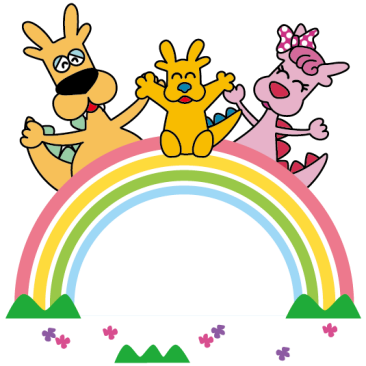
# わがまちの「これから」に向けて

- **新しい総合計画の策定にあたっては、市民のみなさまより意見を伺います**

  - 本年度は、基礎調査や将来に向けた課題抽出などに着手します。

  - 市民のみなさまと、目指すべき将来の方向性を共有するためには、多様な意見が重要です。

  - 策定業務の初期段階から、さまざまな手法で市民のみなさまより意見を伺ってまいります。



# ご静聴ありがとうございました